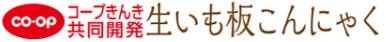


## Contents

02	虹のメッセージ
02-05	新春対談 料亭「菊乃井」主人 村田 吉弘さん × 京都生協理事長 畑 忠男
06-07	商品ものがたり  
08-09	食とくらしの安全・安心 ・ 畝山さんに聞く！食の安全・安心 「国産食品と輸入食品」 ・ くらしの安全・安心 「『ペットを飼う』=『命を預かる』ということ」
10-11	information / ユニセフお年玉募金へのご協力のお祝い コープファンミーティング
12	第22回 Coop Fan Meeting (商品大交流会) のお知らせ
13-15	読者投稿コーナー ほっとTIME 
16	四季彩ごはん こんにやくのピリ辛スープ

## 新春対談

料亭「菊乃井」主人  
村田 吉弘さん

京都生協理事長  
畑 忠男

安全・安心とおいしいを  
未来につなげていくために



京都に根差し、安全・安心な食品をお届けすることを通じて、普段の暮らしを豊かにする京都生協。同じく京都の地で、古くから食を通じて社会に大きく貢献している料亭「菊乃井」のご主人・村田吉弘さんと、これからの「食のありかた」について語り合いました。



## 新年に寄せて

理事長 畑 忠男



新年おめでとうございます。日頃より、京都生協のご利用や活動へのご参加、ありがとうございます。また、当生協の事業や活動へのご理解とご協力を頂いております全ての関係者の皆さまに感謝申し上げます。

京都生協は創立以来、助け合いの組織として、誰もが安心して暮らすことができる地域社会、持続可能な社会の実現に向けて取り組んできました。世界では、米中の貿易摩擦、飢餓や貧困、プラスチックゴミによる海洋汚染、温暖化・気候変動による災害など多くの問題・課題を抱えています。日本でも、人口減少・少子高齢化による働き手不足、地域コミュニティの弱体化など、さまざまな問題をはじめ、買い物困難者の増加、食品ロス、貧困や格差問題、平和の問題など深刻な課題が山積しています。これらの課題に対して、協同組合の役割発揮が期待されていると認識しています。

一人ひとりの暮らしをより良くしていくと同時に、私たちの暮らしと関係する地域社会の課題についても、学び、そして協同の力で取り組んでまいりたいと考えています。また、誰もがより利用しやすい宅配事業や店舗事業にすることで、組合員の皆さまの食を中心とした暮らしを支えていく決意です。本年もよろしくお願いいたします。



▲「菊乃井」は京都東山にある大正元年創業の名だたる料亭。緑に包まれた清閑なその場所で味わう料理と時間、空間を村田さんは「大人のアミューズメントパーク」と表現しています

## 文化としての和食と食へのこだわり

畑 村田さんは、京都生協のことはご存知ですか。

村田 知っていますよ。若い頃はマンション住まいで、いつも商品を配達してもらっていました。

畑 ご利用いただいていたのですね、ありがとうございます。村田さんは2013年の和食のユネスコ無形文化遺産登録にご尽力され、今や和食は世界中から注目されています。国内外で修行やさまざまなご経験をされている村田さんから見て、あらためて内外へ発信する和食の魅力とは何でしょうか。

村田 食の文化遺産の登録時に検討した「和食の特徴」は4つです。1つ目は、「四季の情感を料理に映し込む」。2つ目は「食材の持ち味を大切に」。3つ目は「栄養バランスに非常に優れている」。そして4つ目が最も評価された「国

民の生活と非常に密接な関係にある」です。祇園祭には鱧、長崎くんちではアラ料理、北の方では芋煮会…と地域ごとの祭りや行事に必ず食べるものが評価されました。特に正月の午前中に日本全国で雑煮を食べるのは世界的にも珍しく、残すべき文化だとなり、無形文化遺産に登録されました。料亭の料理ではなく地方の食、田舎で伝わる煮ころがしや、煮付けを中心とした和食を文化として維持継承すると世界中に約束したわけです。

畑 四季の食が地域ごとの年中行事に結びついているのが日本の良いところですね。

村田 そういう意味では、今の日本人が一番大切なことを忘れていていると思います。忙しくて季節の巡りを喜ぶことがない。野菜も年中収穫できるものがほとんどで、無理な生産はCO<sub>2</sub>の排出を増やします。季節ごとの野菜を食べて、消費者が社会貢献する必要があると感じます。

畑 そういったことを「食」を通じてもう一度認識することが